



千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

93.7.20 No. 3831

「12.1ダイヤ改」提案-JR東日本概要を 「時短」を実施- ダイヤ改に合わせて

七月十五日、JR東日本は、今秋ダイヤ改の実施計画の概要を提案してきた。ダイヤ改の実施時期は、一月一日とし、JR東日本だけの「ダイヤ改正」である。

「もうかる箇所は増発、非採算分野は切り捨て」

提案によるダイヤ改の骨子は：

JR東日本は、JR発足後、約一〇万キロの列車増発を行い、輸送量は二三%、輸送収入は二四%増加した。今回のダイヤ改は、将来の鉄道輸送のあるべき姿を見通して、増収可能な分野への経営資源の重点的な投入と、非採算分野の効率化により、徹底的なコストの低減をはかるとしている。

ダイヤ改の主な項目

- ・首都圏輸送
常磐(快速)、武蔵野線の編成増強、東海貨物線「通勤ライナー」の増発
- ・新幹線輸送
東京一〇〇キロ圏の増発、利用客の少ない区間の廃止
- ・中央線に新型車両を投入し速度向上を行なう。(最高速度一三〇K/H、曲線通過速度三〇K/Hアップ)
- ・輸送の効率化
非効率列車を削減する。
- ・総武、横須賀快速線の土曜日を休日ダイヤとする。

以上の内容を骨子に、ダイヤ改を行い、列車設定キロは、新幹線一二〇〇キロ増、在来線九五〇〇キロ削減、総輸送キロは四月時点の七三、六〇〇キロに対し、七二、七〇〇キロとなる。

労働者票の離反生み出した社会党の屈服、革新勢力の台頭・労働運動の復権を！

衆議院選挙の結果が判明した。自民党は過半数を割り、新党が「躍進」、社会党は議席を半減する結党以来の惨敗となった。

社会党惨敗の理由は明らかである。社会党は、この数年間にわたる「社会党潰し」攻撃になす術もなく屈服し、「労働者階級の党」としての立場を次々と投げ捨て、社会党に投ぜられてきた労働者票を裏切り続けた。特に今回の選挙に当たって、第二自民党でしかない新生党と一体となって「連合政権を組む」と公言するに至って、この間社会党に一縷の望みを託してきた労働者票は、当然の帰結として、離反してしまつたのである。この惨敗を新たな契機として、社会党のさらなる屈服・解体に向けた動きは、より急速に進むであろう。われわれは、この動向に警鐘を乱打しなければならぬ。何故ならば、社会党の解体は、「新たな翼賛政治体制」づくりに向けた大きな転換点に他ならないからである。

・日本新・さきかけ・保守系無所属の議席を合わせれば、三四七議席になるのだ。
今後の政局は、日本新党、新党さきがけが、自民党との連立の余地をも残している状況のなかで未だ不明であるが、明らかなのは、今回の結果を期に、日本の政治が長期に及ぶ大激動期に突入したということである。支配階級も、自民党支配が崩壊するという未曾有の危機のなかで、何ひとつ具体的な展望をもち得てはいない。また、「新党ブーム」などと言われる状況にもかかわらず、史上最低の投票率となつたことに示されるように、「国民」は、新党も含めた既成の政党に何ひとつ期待できるなどとは思っていないのだ。

問われていることは、本当の革新勢力の新たな台頭であり、支配の危機をついて起ちあがる戦闘的な労働運動の復権である。怒りは充満しているにもかかわらず、その怒りを代弁し、糾合し、組織する者がいないのだ。新たな決意で、翼賛体制―戦争への道を阻止する闘いを創りあげよう！

「時短」実施は二月一日

ダイヤ改に合わせて、労働時間短縮を行なうとしているが、この時期に合わせて、作業体制の効率化、輸送コストの低減を行なうとしている。

「時短」は、現行年間休日数を一〇〇日から一〇九日に移行するために、業務の切り捨てや、効率化(労働強化)によって実施することを会社は明らかにしている。

現在でさえ、極限的な労働条件の中、さらに効率化―労働強化を進めようとしていることに對し、われわれは二月ダイヤ改の労働条件と眞の時短を確立しなければならない。

千葉労組交流センター

第3回定期総会に参加しよう！

日時 七月二十五日(日) 一三時より
場所 船橋市勤労市民センター

千葉労組交流センターの参加団体として、闘う方針と組織拡大に向けた組織体制確立を勝ちとろう！